

〔第26回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

免疫老化、炎症と健康長寿

炎症・免疫機構研究部

丸山 光生 部長

2024年6月18日(火) 15時00分～

第1研究棟2階大会議室

人生100年といわれる時代を生きる私たちは「老い」について意識する機会も増えてきた。同時に医療や介護の充実に支えられている我が国の高齢化社会を老化の要因や仕組みに関する研究から得られた成果をどのようにして、一人ひとりの健康長寿に繋げていくことができるかが喫緊かつ肝要な課題といえる。私たちのグループでは新たに開発した2種類の老化細胞可視化制御マウスモデルの評価をそれらのMEF細胞を用いて継続しつつ、細胞老化にみられる細胞集団内における個々の多様性の解析あるいは、炎症をキーワードに個体老化のメカニズムを解明する糸口となる生体機能低下の解析を続けてきた。個体老化の免疫系における多様性につながる知見を得ることにした。具体的に今回は、1) ink4A-hCD2マウス由来の脾臓老化リンパ球細胞を単離し、抗ヒトCD2_SAP抗体を用いたイムノトキシン法にて除去できることで個体老化（免疫老化）における表現系の一部が変化したこと、2) ink4A-dTomato_DTRマウス皮膚上皮で老化細胞特異的に炎症抑制機能を有する機能遺伝子のトランスクリプトーム解析に着手したことをこれまでの成果の続報として進捗を報告する。またこれまでに外部との共同研究として免疫老化、炎症を制御する介入研究から得られたエビデンスについても可能な範囲で紹介したい。

座長：丸山 光生 GSRCセンター長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)